

- ホンダ、「N-VAN」のCVTに不具合があるとしてリコール 2018年6月12日～2020年9月7日に生産した8万5390台
CVTの油圧制御プログラムが不適切なため、一定車速での走行時にアクセルの開閉を頻繁に繰り返す操作を行うと、金属ベルトに亀裂が生じ破損することがある。そのため、そのまま使用を続けると、発進、加速不良となり、最悪の場合、走行不能となる恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「S400d 4マチック」「S500d 4マチック」のエアバックに不具合があるとしてリコール 2020年8月10日～2021年10月6日に輸入した2871台
助手席の着座検知装置において、エアバッグコントロールユニットの制御プログラムが不適切なため、作動が停止することがある。そのため、人が着座しているにもかかわらず着座を検知しないため、衝突時にエアバッグが展開しない恐れがある。
- 三菱ふそうトラック・バス、「ふそう エアロエース」の左側後写鏡がワンマンバス構造要件に接触する恐れがあるとしてリコール 2012年7月4日～2021年3月18日に生産した1541台
ワンマンバスは有効寸法130mm以上X280mm以上の平面鏡を前部左窓上部付近の車室に装着することが構造要件として定められている。それに対し、対象車種は、曲率半径620mmおよび900mmの凸面鏡を装着。そのため、路線バスとして使用した場合に、ワンマンバス構造要件に接触する恐れがある。
- トヨタ自動車、「クラウン・パトロールカー」について、サイレンが鳴らなくなる恐れがあるとしてリコール 2021年6月1日～9月16日に生産した197台
サイレン用アンプの制御プログラムが不適切なため、サイレンを鳴らさずにマイク音量を最大で使用すると、当該アンプに過電流が流れる場合がある。そのため、ヒューズが切れ、サイレンが鳴らなくなる恐れがある。
- 日野自動車、「プロフィア」の排出ガス飛散防止装置に不具合があるとしてリコール 2017年6月6日～2020年12月17日に生産した4万7291台
電熱線付き尿素水配管と冷却水配管の固定方法が不適切なため、走行中の振動で両配管が接触し電熱線が断線することがある。そのため、エンジン警告灯が点灯し、そのまま使用すると低温時に尿素水が凍結し排出ガス中の窒素酸化物(NOx)が増加する恐れがある。
- 日本フルハーフ、いすゞ「ギガ」などのウイング用油圧ホースに不具合があるとしてリコール 2015年12月1日～2018年8月31日に生産した18車種435型式3万4123台
ウイング開閉用油圧ホースの配策が不適切なため、フレーム上部コーナーに接触しているものがある。この状態でウイング開閉を繰り返すと、ホースがコーナーに強く押し当てられて損傷し、作動油が漏れ、ウイングが作動しなくなる場合がある。最悪の場合、ウイング開時に開用ホースが損傷すると、ウイングが降下する恐れがある。また、中型ウイング車において、ウイング開閉用油圧シリンダーの閉用配管継手の締付が不適切なため、継手が緩む場合がある。この状態でウイング開閉を繰り返すと、閉用ホースがフレームに接触して損傷し、作動油が漏れ、ウイングが作動しなくなる恐れがある。
- ポルシェジャパン、「ボクスター」等、718シリーズ計6車種について、ハンドル操作が正常に行えなくなる恐れがあるとしてリコール 2012年10月16日～2014年10月21日に輸入した1000台
左右リヤアクスルキャリアサイドセクションの鋳造が不適切なため、強度が不足しているものがある。そのため、当該部品が走行中に破損し、最悪の場合、ハンドル操作が正常に行えなくなる恐れがある。
- 三菱自動車、「ekスペース」「ekクロススペース」・日産OEM「ルークス」の衝突試験において、一部条件下ではエアバッグの性能が十分発揮されない可能性があることが明らかになった。現状あらゆる条件下で、想定通りの性能を発揮することを詳細に確認しているところだという。そのため、一時的に同車両の生産・出荷・登録業務を停止している。確認には、今しばらく時間を要する見込みで、検証が完了次第、メーカーは顧客と関係各所へ報告する予定だ。